

台湾の大学生における立体造形芸術の認識について

上原 一明

The Recognition of Three-Dimensional Formative Arts
in University Students of Taiwan

UEHARA Kazuaki
(Received December 7, 2009)

キーワード：台湾、大学教育、美術教育、立体造形芸術

はじめに

筆者は2002年9月から2006年6月までの5年間、台湾・台北の淡江大学にて非常勤講師として教養学部共通教育「彫刻芸術技法及び鑑賞」の授業を担当した。更に2005年9月からの半期、台南の長栄大学にて同様の授業を担当した。授業内容は、彫刻芸術の導入的基礎知識と応用的立体表現の世界観を講義するものである。本拙論は、この「彫刻芸術技法及び鑑賞」を受講した学生・総勢532名の提出レポートを集計・分析し、現代台湾の大学生において立体造形芸術がいかに認識されているかを考察するものである。

1. 講義内容と提出レポートの内容

筆者が担当した淡江大学の教養部における課目「彫刻芸術技法及び鑑賞」は、全学部及び全学年を対象とした課目である。淡江大学は、文学部、理学部、工学部、商学部、経営学部、外国語文学部、国際研究学部、教育学部、起業ベンチャー学部、グローバル研究ベンチャー学部があり、多数の学部・学科の学生が受講する。長栄大学は、管理学部、健康科学学部、人文社会学部、情報工学部、神学部、教養部があり、本課目は人文社会学部視覚芸術学科の学生が受講した。

講義内容の内訳は、彫刻論、イサム・ノグチの彫刻、ブランクーシの彫刻、台湾の現代彫刻、日本のパブリックアート、日本の仏像彫刻及び近現代の木彫作品、インドの彫刻と遺跡、琉球の世界遺産、石彫作品の制作過程、木彫作品の制作過程、アトリエ見学等、毎年内容を時代と対峙した最新の情報に更新させながら講義してきた。

今回の資料となるレポートは、これら講義内容をふまえて、学生自らが最も関心のある彫刻家あるいは彫刻作品、立体作品、建築にいたる立体造形芸術について記述せよとしている。決して筆者が講義してきた内容に限定するものではない。あくまでも各学生の立体造形芸術に対する率直な関心を求めるものである。よってこのレポートの内容を通して、受講生の立体造形芸術に関する認識を明確に把握することが可能となる。

本課目「彫刻芸術の鑑賞」受講生の在籍学科別リストは以下のとおりである。

(表1)

淡江大学：	
中国文学科・日本語文学科・日本語学科夜間コース・英語学科・ロシア語学科・フランス語文学科・スペイン語文学科・歴史学科 情報工学科・情報工学科夜間コース・財務金融学科夜間コース・ 公共行政学学科夜間コース・会計学科夜間コース・電子機械工学科夜間コース・ 図書館情報学科・運輸管理学科・化学材料工学科・航空宇宙工学科・統計学科・ 国際貿易学科・会計学科・土木工学科・情報学科・情報コミュニケーション学科・ 保険学科・建築学科・教育科学技術学科・水資源及環境工学科・機械機電工学科・ 統計学科夜間コース・財務金融学科夜間コース・公共行政学学科夜間コース	(淡江大学合計516名)
長栄大学：	
視覚芸術学科・視覚芸術学科夜間コース	(長栄大学合計16名)

受講生の在籍学科別リストをみると淡江大学に関しては様々な学部・学科の学生であることが分かり、決して美術を専門とするものではない。長栄大学の視覚芸術学科に関しては、美術を専門とするが、この集計の中においては少数派である。よって、一般的な大学生の立体造形芸術に関するデータを集計することとなる。

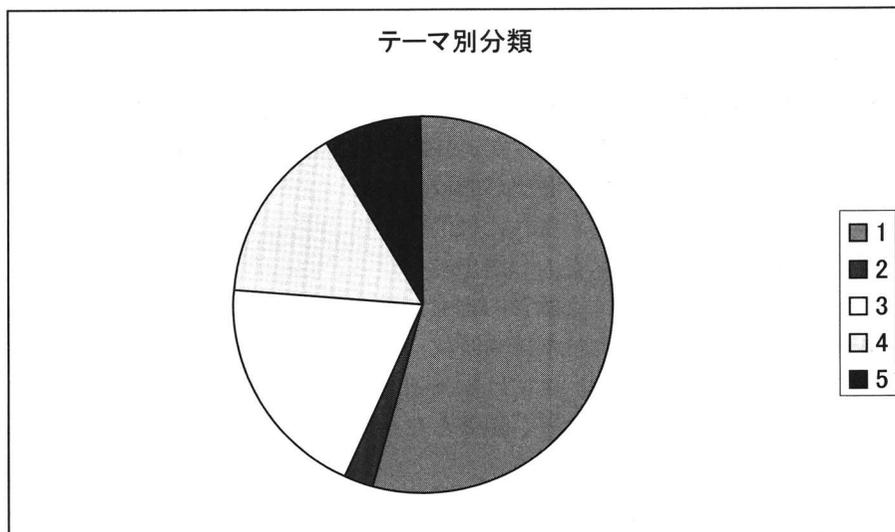
2. レポート内容の分類

提出されたレポート内容の内訳は以下のとおりである。

(表2)

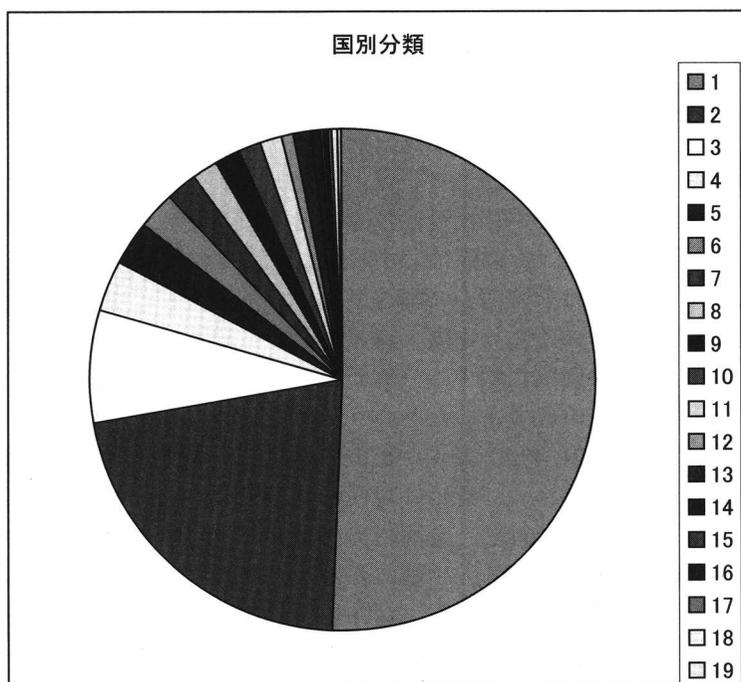
東洋に関する内容		合計 288 名
東洋に関する内容 国別内訳	台湾 中国 日本 ミャンマー インド	191 名 81 名 11 名 4 名 1 名
東洋と西洋全般		合計 13 名
西洋に関する内容		合計 104 名
西洋に関する内容 国別内訳	ヨーロッパ全般 エジプト トルコ ギリシャ ドイツ イタリア イギリス フランス スペイン ルーマニア 北欧 アメリカ オーストラリア チリ マヤ (メキシコ)	15 名 7 名 5 名 12 名 1 名 28 名 9 名 6 名 5 名 2 名 4 名 7 名 1 名 1 名 1 名
芸術全般		合計 82 名
本授業の感想		合計 45 名
レポート総数		532 名

(表3)



1. 東洋に関する内容 (288名) 54.1% 2. 東洋と西洋全般 (13名) 2.4%
 3. 西洋に関する内容 (104名) 19.5% 4. 芸術全般 (82名) 15.4% 5. 本授業の感想 (45名) 8.4%
 (全レポート合計532名)

(表4)



1. 台湾 (191名) 50.6% 2. 中国 (81名) 21.4% 3. イタリア (28名) 7.4%
 4. ギリシャ (12名) 3.1% 5. 日本 (11名) 2.9% 6. イギリス (9名) 2.3%
 7. エジプト (7名) 1.8% 8. アメリカ (7名) 1.8% 9. フランス (6名) 1.5%
 10. スペイン (5名) 1.3% 11. トルコ (5名) 1.3% 12. ミャンマー (4名) 1%
 13. 北欧 (4名) 1% 14. ルーマニア (2名) 0.5% 15. インド (1名) 0.2%
 16. ドイツ (1名) 0.2% 17. オーストラリア (1名) 0.2% 18. チリ (1名) 0.2%
 19. マヤ (1名) 0.2% (国指定レポート合計337名)

3. 分類表による分析と考察

台湾における教育は、戦後「復光」というかたちで中国国民党による政治が行われ、中華思想にもとづく中国教育が施行された。文化に関しても中国文化を重んじ、様々な分野の中国伝統文化を芸術教育の柱としてきた。1960年代から80年代における学校教育は、全てにおいて中国大陸の文化・地理・歴史が教授された。台湾は中国の一省であるという認識の下、学校教育の場では一地域とされ比較的取り扱う機会は少なかった。しかし、1996年の大統領直接選挙による台湾本省人の選出前後から、台湾の民主化と台湾本土化が急速に進むと同時に、学校教育における教育内容も台湾そのものがクローズアップされた。現在は、台湾先住民族文化の重視、日本統治時代に東京美術学校に進学し活躍した台湾の先人芸術家達に対する業績の再評価、更には国外留学していたタイワニーズ・アーティスト達の台湾における芸術活動の拡充などが顕著となっている。これらの状況は、台湾民主化と台湾本土化の文化的現象の表れである。

(表3)においてその過半数を東洋に関する内容が占めているが、その国別内訳(表4)を見るとその半数が台湾に関する内容で占められている。台湾民主化から十数年を経た現時点でこのようなデータ結果が出たことは、台湾における1990年代の美術教育の改革が反映されていることを如実に示している。本調査の対象者である2002年から2005年における台湾の大学生は、小学校・中学校・高校をこれら台湾文化重視の教育を受けてきた世代だからである。そのレポートの内容は、特に台湾出身の彫刻家に関するものが多くみられる。(表5)の集計資料を参照すると分かるように、独自の美術館を有する朱銘(1938年～)は、その今日的知名度の高さを示している(33名)。次に多い黄土水(1895年～1930年)は、日本統治時代に東京美術学校(現・東京芸術大学)に学んだ台湾の先人芸術家たちの再評価として近年注目を集めている(15名)。楊英風(1926年～1997年)も同じく東京美術学校(建築学科)に学び、近代台湾の先進的彫刻を発展させた偉人として一般的にも評価が高い(11名)。これら3氏はいずれも台湾出身の彫刻家であり、多くの受講生達に取り上げたレポートにはその関心の高さがうかがえる。仮に1970年代から80年代に同じ調査を行ったとすれば、おそらく中国大陸文化に関する内容が過半数以上を占めていたと考えられる。その当時の彫刻に関する公募展において蒋介石像を出品すれば、そのほとんどが入選・入賞していた時代であったという。

中国文化に関する内容は21.4%(表4)を占めてはいるが、中国宮廷建築を筆頭に一般芸術・伝統文化論的な内容が多く、特定の現代彫刻家を取り上げたものは台湾の彫刻家と比較しても圧倒的に少ない。それは、台湾の美術教育の中では中国現代彫刻に関する情報が未だに少ないことを示唆している。中国における現代彫刻は、社会主義政治の中で長く個人的芸術表現を排除してきた時代から、1978年の改革開放後以後、数多くのアーティストが爆発的に出現した90年代を待たなければならない。近年中国と台湾は、政治的・経済的にも緊密になる傾向にある。このような状況の中で、中国の芸術家を紹介する美術雑誌や展覧会等が徐々に増加していることから、今後两岸の文化的情報共有が大いに進展してゆくものと思われる。今回の調査で34名に及ぶ多くの台湾彫刻家の名が挙げられたのは、一般的な現代台湾の人々の地元アーティストを支持する姿勢や、地元アーティスト達の展覧会等による活動の情報量の多さ、作品感覚の受容が容易であることなどをその理由として挙げるができる。

その他、イタリアとギリシャ（合わせて約10%）に関しては、西洋美術史としての美術教育の充実が示され、古代及び中世ヨーロッパによせる関心の高さがうかがえる。また少数派ではあるが、インドやチリ、マヤ（メキシコ）にいたる多くの国が取り扱われていることは、世界的文化の多様性に対する関心と認識の高さが示される。

このデータは、淡江大学と長英大学の2002年から2006年に提出された学生レポートから、台湾の大学生における立体造形芸術の認識について集計したものであるが、1990年代の美術教育の成果と2000年代前半の立体造形芸術に対する現状認識がよく示されている。数年後、或いは十数年後時間をおいた後、再度同様の調査が可能であれば、各時代の意識調査として比較ができ、それぞれの時代の特色が浮かび上がる興味深い結果が出るものと思われる。

集計資料

(表5)

レポート題名	淡大G1	淡大G2	淡大G3	淡大G4	淡大G5	淡大G6	長栄大学	合計
風獅爺	1					1		2
布袋戲	1			1	1			3
鶯歌陶器					1			1
三義木彫刻、作品の紹介	3	2		1	3	1		10
三義木彫刻と陳敏峰			1					1
台湾木彫刻	3							3
鹿港木彫刻とその作品の紹介				1				1
三峡祖師寺彫刻				2	1			3
石彫と花蓮石彫、作品の紹介	2	1			2			5
台湾彫刻や建築の歴史、作家、作品などの紹介		2	2	4	7	1		16
台湾陶器の歴史の紹介や現代陶磁器				1	1			2
台湾玉石の彫刻作品				1				1
十三行遺跡作品					1			1
台北現代美術館の見学について					1			1
台湾彫刻とその台湾原住民彫刻（排湾民族が中心）の紹介	1	1	1	2	4	1		10
台湾お寺の彫刻と建築について					1			1
楊英風とその作品	1	6			3	1		11
李松林とその作品		4		1	1	1		7
李松林とアルベルト・ジャコメッティの作品						1		1
陳石年とその作品				1				1
朱銘とその作品	4	9	3	5	10	2		33
黄龜理とその作品				1				1
黄瑞元と「風」という作品の紹介と感想				1				1
黄土水とその作品		2	1	3	9			15
呂美麗とその作品		1	1					2
洪瓊華とその作品						1		1
黄明鍾とその作品			1					1
李文武とその作品			1	1				2
黄石元とその作品				1				1

郭清治とその作品						1	1
張舒嶠とその作品				1			1
蔡志賢とその作品				2			2
朱邦雄とその作品		1		1			2
賴哲祥とその作品				1			1
陳振輝とその作品		1		2			3
劉庭易とその作品				1			1
黄国書作品の紹介	1			1			2
鄧廉懷とその作品		1					1
陳夏雨とその作品		1					1
王俠軍とその作品(瑠園)の紹介		1					1
陳庭詩とその作品		1					1
龔一舫とその作品		1					1
吳卿とその作品		1					1
蒲添生とその作品		1		1			2
袁啓同とその作品		1					1
謝棟樑とその作品		1					1
蒲浩明とその作品	1						1
高華文とその作品	1						1
陳俐莉とその作品	1						1
台湾の「啄木坊」という仕事場の創作者とその作品			1			1	
台湾彫刻家・李光裕と王志文の紹介		1					1
サイミラ・オウヨウ(Salimla Ouyo 台湾魯凱先住民)とその作品	1			1			
卵彫刻の大家である簡長順とその作品				1			1
林聰恵とその作品			1				1
石彫及び王秀杞とその作品			1	1	1		3
台湾の各地下鉄にある作品の紹介			1			2	3
台湾の様々な公共空間にある彫刻作品の紹介、問題など	1					1	
台湾風雲際会彫刻展覧会とその作品の紹介			1				1
台湾ガラス彫刻とガラス彫刻作品						1	1
台湾1998年の「芸術再生・文化出航」という美術祭りのイベントにおける作品の紹介	1	1					
台湾の花東ハイウェーと蘇花ハイウェーの道中にある芸術品について	1						1
台湾代替空間について			1				1
桃園大溪の彫刻作品			1	1	1		3
故宮博物館の作品(陶磁器、翠玉白菜など)	1			1			2
澎湖文石の紹介					1		1
嘉義石猿とその大家の紹介					1		1
台中の彫刻作品		1					1
丘雲とその作品				1			1
面塑(しん粉細工の人形)について					1		1
卵殻による彫刻と天安門カプセル型の中国国歌大劇院	1	1		2		4	
中国仏教彫刻、歴史、作品について	1					1	2
中国と台湾を中心にした各種彫刻や作家、作品の紹介	1			1	1	1	4
秦代の兵馬俑について				2	2		4
秦俑と陽陵漢俑特色についての比較	1						1
春秋秦漢～清時代の作品				1	1		2
中国建築(宮廷建築などを含め)について			4	2	7	2	15
中国芸術や彫刻、歴史と作品について	2			1			3
中国水仙の彫刻アート			1				1

中国柱彫刻作品						1			1
中国石彫刻	2			2	1				5
中国陶磁器（紫砂陶彫塑などを含め）、歴史とその作品		1				1			
中国写意彫刻				1					1
中国（徽州）木彫			1						1
隋代石彫（阿閃佛頭像）				1					1
唐代彫刻作品と林吉峰				7	3				10
唐代彫刻や作品の紹介（昭陵六駿、唐三彩、唐代俑なども含め）、南北朝への影響など	1				1				2
唐宋における彫刻と作品					1				1
魏晉～隋唐時代彫刻					1				1
中国篆刻			1						1
中国木彫とその作品	1				1	1			3
中国、台湾木彫とその作品	1								1
中国ハルビン市を例にした氷彫刻					1				1
中国国際舟山砂彫刻祭りとその作品		1		2	3	1			7
中国の石窟（雲崗・竜門・敦煌などの石彫）についての紹介、感想など	1					1			2
中国彫刻歴史的な概説と台湾先住民彫刻				1					1
中国水仙の彫刻アート					1				1
万里の長城について					1				1
四川楽山大仏	1		1						2
嚴培明とその作品								1	1
イサムノグチとその作品	1		1						2
日本の浮世絵と日本刀				2					2
上原一明とその作品					1				1
北海道について					1				1
沖縄と沖縄における建築・彫刻					1				1
村上隆とその作品					1				1
多田美波とその作品		1		1					2
江戸切子ガラスと黒木国昭	1								1
ミャンマーの石彫と作品				3	1				4
インド彫刻作品				1					1
ロードス島の巨像（the Colossus of Rhodes）像について	1				1				
アンコール・ワットについて				1	2	1			4
彫刻の歴史、作品の紹介と中西彫刻の比較、特色紹介など	1	2	1	6	2				12
東洋・西洋作品				1					1
エジプト彫刻、作品（スフィンクス像）について				2	2	1			5
エジプトのギザのピラミッドの紹介と感想				2					2
ルネサンスにおける彫刻作家などの紹介とダビデ像について	1		1		2				
西洋芸術史（芸術と古代ギリシャ・ローマ）について			2	2	4	1			9
ギリシャの概略や彫刻、芸術と作品		1		3	1				5
ギリシャのミロの作品（ヴィーナス像、デビダ像など）	1			1					2
ゼウス神殿とゼウス像			1			1			2
ギリシャやローマの彫刻と建築						1			1
バロック時期芸術				2					2
マヤの建築と彫刻		1							1
石彫及び西洋彫刻	1			1					2
ローマのパンテオンとダビデ像		2	1	7	7	2			19
ミケランジェロとその作品	2	1			1				4
レオナルド・ダ・ヴィンチとその作品		2							2

バロック時代のイタリアのベルニーニとその作品について	2				1	3		
イギリスのヘンリー・ムーアとその作品			2	4	2		1	9
ロダンとその作品		1					1	2
フランスのミヨー橋について					1			1
フランス彫刻作品の紹介 (エトワール凱旋門など)				1				1
フランスの「揺れ」という作品の紹介と感想					1			1
フランスのルーヴル美術館の作品について				1				1
スペイン建築家ガウディとその作品					1			1
スペインにおける公共芸術作品			1					1
ピカソとその作品					2			2
スペインのダリとその作品				1				1
南アメリカの都市にある建築				1				1
南アメリカのブッシュマンの絵画作品							1	1
貝聿銘 (アメリカ) とその作品		1						1
ダネル (Alexsander Danel) とその作品							1	1
ジャクソン・ポロック (アメリカ) とその作品							1	1
www.electronic-life-forms.netというサイトの作品				2			2	
ギリシャのペイディアスとその作品					1			1
マジック・ジョンソン像				1	1			2
チリ領イースター島にあるモアイ像				1				1
「貝殻を聞く男」という石彫作品、新古典主義の紹介と感想		1				1		
スウェーデンのクレス・オルデンバーグとその作品の紹介と感想	1				1			
トルコのアルテミス神殿				1				1
ルーマニアのブランクーシ作品		2						2
ヘニングコッペルとその作品		1						1
ロン・ミュエク (オーストリア) とその作品							1	1
石彫とその作品 (お寺など)			3	4	3	1		11
木彫、木彫と宗教彫刻の紹介とその関連性	1		1					2
氷彫展覧会の作品			1					1
氷彫と石彫を主とした作品			1	9	6	2		18
彫刻とその作家、作品(写真など)の紹介感想など	9		1					10
紙彫刻と作品				1	1			2
玉彫刻について					2			2
人体の彫刻						1		1
食物彫刻について				1				1
各種公共空間の彫刻作品						1		1
砂彫刻と国際砂彫刻イベントにおける作品					2			2
陶器、陶器の彫刻	2			1				3
石彫と印鑑芸術				1				1
竹彫刻について						1		1
彫刻と景観彫刻			5	2	2	1		10
宗教彫刻芸術や作品の紹介、感想、歴史など			1					1
「歴代仏像の芸術展覧会」における作品について					1	1		2
芸術と芸術鑑賞							1	1
芸術についての感想							1	1
車芸術について				2				2
書道、建築、家具、篆書体、印鑑について				1				1
黄楊とその作品を使った道具				1				1
彌勒仏の紹介と感想							1	1
創作と表現について自分の感想					1			1
拳銃の銃身とカバーについて				1	1			2

銅器、ブロンズ（青銅器）とその作品				1				1
寿山石について				1				1
自分の高校時代の作品について		1						1
「彫刻芸術技法及び鑑賞」の授業を受けた感想	1			43	1			45
合計	54	58	51	175	141	37	16	532

*…淡大G 1 = 淡江大学2005年前期、淡大G 2 = 2005年度後期、淡大G 3 = 2004年前期、
淡大G 4 = 2003年前期・後期、2004年後期、淡大G 5 = 2002年後期、2006年前期、
淡大G 6 = 2002年前期

*…長栄大学 = 長栄大学2004年度前期